

Wentzell の境界条件をみたす  
Markov 過程

京大 理 志 賀 徳 造

§. 0

Wentzell 型の境界条件をみたす拡散過程については、佐藤-上野の結果がある。それは、Wentzell 型の境界条件をみたす拡散過程と、境界上の Markov 過程が 1:1 に対応することを結論づけている。そこで、境界上の Markov 過程が存在するための条件を、Wentzell の境界条件の中に条件化することが残された重要な問題であった。

最近、Courrège, Bony, Priouret は拡散過程より、広い枠組の中で、本質的には、微分方程式論の結果を用いることにより、解決を与えている。

本報告は、この Courrège, Bony, Priouret の結果の紹介である。

## §. 1 Singular operator

$D$  :  $N$ -dim orientable manifold ( $C^\infty$ ) の domain

$\bar{D}$  は compact,  $\partial D$  は  $C^3$ -class の滑らかな曲線を規定する。

$S(x, dy)$  が  $\bar{D}$  上の singular kernel であるとは 次の条件をみたす  $\bar{D} \times \bar{D}$  上の kernel のことである。

(S<sub>1</sub>)  $S(x, x) = 0$ ,  $S(x, dy)$  は  $dy$  によって  $\bar{D}$ - $x$  上の Radon measure

(S<sub>2</sub>) 任意の local coordinate  $(U, \chi)$  に対して

$U \supset K$ : compact

$\int_K S(x, dy) |\chi(y) - \chi(x)|^2$  は  $U$  上で有界

関数の系  $\{\sigma_\alpha(x, y)\}_{(x, y) \in \bar{D} \times \bar{D}}$  を次のように構成して、以後これを fix する

(V<sub>1</sub>)  $(U_\alpha)$  は  $\bar{D}$  の 2 つの finite covering  $\bar{V}_\alpha \subset U_\alpha$

$(U_\alpha, \chi_\alpha)$  からの local coordinate を取るものを選び、

$(U_\alpha \times U_\alpha, \bar{D} \times \bar{D} - \bigcup_\alpha \bar{V}_\alpha \times \bar{V}_\alpha)$  は  $\bar{D} \times \bar{D}$  の finite covering

にこれを対応する 1 の分解  $\sum (\sigma_\alpha(x, y), \rho)$  として

$\sum \sigma_\alpha \equiv \sigma$  とおき、 $\rho$  は locally unit function とし、

$0 \leq \sigma \leq 1$ ,  $\text{supp}[\sigma_\alpha] \subset U_\alpha \times U_\alpha$ ,

$u \in C^1(\bar{D})$  に対して

$$\theta_x u(y) \equiv \sum_{\alpha} \sigma_{\alpha}(x, y) \left[ u(x) + \sum_{k=1}^N \frac{\partial u}{\partial X^k}(x) (\chi_{\alpha}^k(y) - \chi_{\alpha}^k(x)) \right]$$

によって定義された  $\theta_x u$  を 1 次の Taylor 展開という。

次の形の作用素  $S$  ( $\mathcal{D}(S) = C^2(\bar{D})$ ) を singular operator という。

$$(S_1). \quad S u(x) = a(x) u(x) + \frac{\partial u}{\partial X} + \int_{\bar{D}} S(x, dy) (u(y) - \theta_x u(y))$$

$$(S_2). \quad S 1 \leq 0$$

==に、 $X$  は vector field on  $\bar{D}$  である。

さらに、 $S; C^2(\bar{D}) \rightarrow C(\bar{D})$  continuous と仮定する。

$A \in \bar{D}$  上の uniformly elliptic operator of 2nd order とする。

ここで取り扱おう Markov 過程の特性作用素は次の形のものである。

$$A + S = W$$

$W$  は elliptic operator に関する最大値原理がそのまま成り立つことを示そう。

Prop. 1

$$u \in C^2(\bar{D}) \quad \sup u = u(x_0) \geq 0 \quad \exists x_0 \in \bar{D}$$

ならば、

$$W u(x_0) \leq 0$$

☹️  $Au(x_0) \leq 0$  はよく知られてゐる

$$\begin{aligned} Su(x_0) &= a(x_0)u(x_0) + \int_{\bar{D}} S(x_0, dy) (u(x_0) - \sigma(x_0, y)u(x_0)) \\ &= u(x_0)S1(x_0) \leq 0 \end{aligned}$$

### Prop. 2

$$u \in C^2(\bar{D}) \quad Wu \geq 0 \text{ in } \bar{D}$$

$\sup u = u(x_0) \geq 0, \exists x_0 \in D$  ならば  $u$  は定数である.

☹️  $D \subset \mathbb{R}^n$  の場合に示せば, manifold の場合に修正することは容易.

今,  $u$  が定数でないとして仮定しよう.

$M = \{x \in \bar{D} ; u(x) = \sup u\} \neq \bar{D}$  だから,  $M$  と唯一実で接する球が存在する. その球を  $B(0, r)$  としよう.

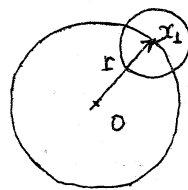
$$B(0, r) \cap M = \{x_1\}, \quad |x_1| = r$$

その時, 次のような関数が存在する.

$$v \geq 0 \text{ in } B(0, r)$$

$$v \leq 0 \text{ in } B(0, r)^c$$

$$Wv(x_1) > 0$$



この  $v$  は次のようにして構成される.

$$v_K(x) = e^{-K|x|^2} - e^{-Kr^2} \text{ は前の2条件をみたしている.}$$

更に,  $Av_K$  を具体的に計算すれば,  $A$  が uniformly elliptic ( $\bar{D}$ : compact) より下からの評価がえられ, 更に singular

kernel の性質を考慮して、 $K$  を定めればよい。

この  $v$  に対して、

$$\exists d > 0, \quad Wv(x) > 0 \quad \text{in } x \in B(x_1, d)$$

$$u_\lambda(x) \equiv u(x) + \lambda v(x) \quad (\lambda > 0) \quad \text{とすれば, } Wu_\lambda(x) > 0 \\ x \in B(x_1, d)$$

ところが  $u_\lambda$  は  $B(0, r) \cap B(x_1, d)$  で  $\sup u$  を attain  
するよ様に、 $\lambda$  を  $\infty$  に近づけていく

i.e.  $\sup_{x \in B(0, r) \cap B(x_1, d)^c} u(x) < \sup u$ ,  $u_\lambda(x_1) = \sup u$  に注意すればよい。

ところが、これは Prop. 1 に矛盾する。

### Prop. 3

$$u \in C^2(\bar{D}) \quad Wu(x) \geq 0, \quad x \in \bar{D}$$

$u(x_1) = \sup u \quad \exists x_1 \in \partial D$  ならば、 $u$  は定数であるか、

$$\text{又は } \frac{\partial u}{\partial n}(x_1) < 0 \quad (\text{すなわち } n \text{ は内向き法線を表わす})$$

(証明 略)

Prop. 3 の証明は Prop. 2 とほとんど同じ方法で出来る。

(注) Prop. 1 より  $W$  は  $C(\bar{D})$  の中で closable である

$\{W, \mathcal{D}(W) = C^2(\bar{D})\}$  の closure を  $\bar{W}$  と表わす。

## §.2 Minimal resolvent

$\mathbb{R}$  回導関数が  $\lambda$ -次 Hölder continuous であるような関数の空間は、適当なノルム (Hölder norm) により Banach 空間になる。その空間を  $C^{k,\lambda}$  によって表わす。

次の事実は微分方程式論において基本的である。

Lemma. 1 [Dirichlet 問題]

$A \in$  class  $C^{0,\lambda}$  の elliptic operator とする (i.e.  $A: C^{2,\lambda} \rightarrow C^{0,\lambda}$ )

そのとき

$$C^{2,\lambda}(\bar{D}) \longrightarrow C^{0,\lambda}(\bar{D}) \times C^{2,\lambda}(\partial D)$$

$$u \longmapsto (Au, [u]_{\partial D}) \text{ は isomorph である} \\ \text{(1:1 onto の意)}$$

Lemma. 2 [oblique derivative を含む境界問題]

$\tau \in \partial D$  上の class  $C^{1,\lambda}$  なる vector field とする

$\mu \in C^{1,\lambda}(\partial D)$  ならば

$$C^{2,\lambda}(\bar{D}) \longrightarrow C^{0,\lambda}(\bar{D}) \times C^{1,\lambda}(\partial D)$$

$$u \longmapsto (Au, \mu \frac{\partial u}{\partial \eta} + \frac{\partial u}{\partial \tau}) \text{ は isomorph である.}$$

次に Index theorem の簡単な形を述べよう。

$E, F$  各々 Banach 空間。

$T$  を  $E$  から  $F$  への有界 operator とする。

もし  $\dim [\text{Ker}(T)] < +\infty$ ,  $\text{codim} [\text{Im}(T)] < +\infty$

ならば "T は index をもつ" といふ。

$$\chi(T) \equiv \dim[\text{Ker}(T)] - \text{codim}[\text{Im}(T)] \text{ は } T \text{ の index.}$$

といふ。

### Lemma 3

$T: E \rightarrow F$  bdd. かつ isomorph.

$K: E \rightarrow F$  compact operator ならば  $T+K$  は

"index 0" をもつ。

☺  $T^{-1}$  は  $F \rightarrow E$  の bdd op. であるから  $T^{-1}K \equiv H$  は  $E \rightarrow E$  の compact operator.

従って  $I+H$  が "index 0" をもつことはわかればよい。

$H$  は compact であるから  $\dim[\text{Ker}(I+H)] = \dim[\text{Ker}(I+H^*)] < +\infty$

$$\begin{aligned} \dim[\text{Ker}(I+H^*)] &= \dim \{ f; (f, (I+H)x) = 0, x \in E \} \\ &= \text{codim} \{ (I+H)x, x \in E \} \end{aligned}$$

従って  $I+H$  は "index 0" をもつ。

### Theorem 1

$S; C^2(\bar{D}) \rightarrow C^{0,\lambda}(\bar{D})$  continuous.

その時  $\forall d > 0$  に對して

$$C^{2,\lambda}(\bar{D}) \rightarrow C^{0,\lambda}(\bar{D}) \times C^{2,\lambda}(\partial D)$$

$u \mapsto ((W-d)u, [u]_{\partial D})$  は isomorph である

⊙  $S$  は  $C^{2,\lambda}(\bar{D}) \rightarrow C^{0,\lambda}(\bar{D}) \wedge$  の compact operator.

$u \rightsquigarrow ((W-d)u, [u]_{\partial D})$  は次の三つの写像の

和である。(1)  $u \rightsquigarrow (Au, [u]_{\partial D})$  (2)  $u \rightsquigarrow (Su, 0)$

(3)  $u \rightsquigarrow (-du, 0)$  (1) は isomorph. (2), (3) は compact

だから Lemma. 3 により  $u \rightsquigarrow ((W-d)u, [u]_{\partial D})$  は

"index 0" をもつ.

故に, 1:1 を示せば, この定理は証明出来たことになる.

$(W-d)u=0, [u]_{\partial D}=0 \Rightarrow u=0$  であることを.

Prop. 1 より直ちにわかる.

(注) Th. 1 は  $W \neq 0$  ならば,  $d=0$  の時も正しい. (⊙ Prop. 2)

### Theorem 2

(i)  $\forall d > 0, \forall f \in C^{0,\lambda}(\bar{D})$  に対して

$$\begin{cases} (d - W)u = f \\ [u]_{\partial D} = 0 \end{cases} \text{ は } C^{2,\lambda}(\bar{D}) \text{ の中に unique solution がある.}$$

この solution を  $u = G_d^\circ f$  と表わす.

(ii)  $G_d^\circ$  は  $C(\bar{D})$  上の sub-Markov resolvent operator に拡張出来る.

(iii)  $\forall f \in C(\bar{D})$  に対して  $u = G_d f$  は

$$\begin{cases} (d - \bar{W})u = f \\ [u]_{\partial D} = 0 \end{cases} \text{ の unique solution である.}$$



(iv) for  $\forall f \in C_0 \equiv C(\bar{D}) \cap \{u : [u]_{\partial D} = 0\}$   
 $\| \alpha G_\alpha f - f \| \rightarrow 0 \text{ as } \alpha \rightarrow \infty$



(i) は Th. 1 より明らか. (ii) は  $G_\alpha$  が  $C^{0,\lambda}(\bar{D})$  上の positive sub Markov であることを示せば十分. それは Prop. 1 から容易にわかる.

(iii),  $W$  の closable であるから, closure の定義により.

(iv)  $f \in C_0^2(\bar{D})$  に対して,  $(\beta - W)f \equiv g$  とおくと

$$[f]_{\partial D} = 0 \text{ から } f = G_\beta^0 g.$$

$$\| \alpha G_\alpha^0 f - f \| = \left\| \frac{\beta}{\alpha - \beta} G_\beta g \right\| + \left\| \frac{\alpha}{\alpha - \beta} G_\alpha g \right\| \rightarrow 0 \text{ (} \alpha \rightarrow \infty \text{)}$$

従って  $f \in C_0(\bar{D})$  についても, 明らかになり立つ.

Yosida-Hille の定理により,  $G_\alpha^0$  には  $C_0(\bar{D})$  上の continuous semi-group  $\{T_t^0\}$  が対応する.

### Theorem 3

(i)  $\alpha > 0$ ,  $\varphi \in C^{2,\lambda}(\partial D)$  に対して

$$\begin{cases} (\alpha - W)u = 0 \\ u(x) = \varphi(x) \quad x \in \partial D \end{cases} \text{ は } C^{2,\lambda}(\bar{D}) \text{ の中 unique solution}$$

をもつ. これを  $u = H_\alpha \varphi$  と表わす

(ii)  $H_\alpha$  は  $C(\partial D) \rightarrow C(\bar{D})$  への positive contraction operator に拡張出来る

(iii)  $H_2 f$  が  $C^2(\bar{D})$  に属し、 $H_2 f$  が  $\partial D$  上の実  $x_0$  で、  
nonnegative maximum をとれば、 $H_2 f$  は定数であるか、  
又は  $\frac{\partial}{\partial n} H_2 f(x_0) < 0$  である。

⊙ (i), (ii) は Th. 2 と殆んど同じ。

(iii) は Prop 3 より容易にわかる。

### §. 3 Wentzell の境界条件について.

$S$  と同じようにして、境界上の singular operator  $T$  を定義する。

$\partial D \times \beta \bar{D}$  上の kernel  $t(x', dy)$  は、次の条件  $(W_1), (W_2)$  を満たすとき、境界上の singular kernel という。

$$(W_1) \quad t(x', \bar{x}') = 0$$

$t(x', dy)$  は  $dy$  について  $\bar{D} - \bar{x}'$  上の Radon measure

$(W_2) \quad \forall (U, \chi)$ ; 境界を表現する local coordinate. 12376

$$\int_{\mathbf{K}} t(x', dy) \left[ \chi^N(y) - \sum_{i=1}^{N-1} (\chi^i(y) - \chi^i(x'))^2 \right] \leftarrow \text{は } U \text{ 上有界}$$

(  $\mathbf{K} = \mathbf{K}^U$  は  $U$  の compact subset )

(注) 境界を表現する local coordinate  $(U, \chi)$ ,  $U \cap \partial D \neq \emptyset$

$$\Leftrightarrow \begin{cases} x \in \bar{D} \text{ ならば} & \chi^N(x) \geq 0 \text{ であって,} \\ x \in \partial D & \Leftrightarrow \chi^N(x) = 0 \text{ なる座標系.} \end{cases}$$

境界を表現する座標系  $(U, \chi)$  は、各境界点に對して

常に存在するので、境界点を含む local coordinate は、いつでも

境界を表現するものを選んでおく。

次のように定義される  $\Theta_{x'}^* u$  を境界上の1次のTaylor展開  
という。

$$\Theta_{x'}^* u(y) = \sum_{\alpha} b_{\alpha}(x, y) \left[ u(x) + \sum_{j=1}^{N-1} \frac{\partial u}{\partial \chi_{\alpha}^j}(x') (\chi_{\alpha}^j(y) - \chi_{\alpha}^j(x')) \right]$$

さらに、境界上の singular operator  $T$  は、次のように定義  
される。

$u \in C^2(\bar{D})$  に対し

$$Tu(x') = \eta(x') u(x') + \frac{\partial u}{\partial Z}(x') + \int_{\bar{D}} t(x', dy) [u(y) - \Theta_{x'}^* u(y)]$$

$$T1(x') \leq 0 \quad \forall x' \in \partial D, \quad z = \frac{\partial}{\partial Z}: \text{vector field on } \partial D$$

Def  $L$  が "Wentzellの境界条件" であるとは

$$\mathcal{D}(L) = C^2(\bar{D}) \ni u \text{ に対し}$$

$$Lu(x') = Qu(x') + \mu(x') \frac{\partial u}{\partial n}(x') - \delta(x') Wu(x') + Tu(x')$$

$Q$ : elliptic operator on  $\partial D$ .

$$\mu \geq 0 \quad \delta \geq 0$$

つまり、以後考える  $L$  の class を設ける。

$L$ : "transversal"

$$\iff \forall x' \in \partial D \text{ に対し } \mu > 0$$

$$\mu(x') > 0 \quad \text{or} \quad \delta(x') > 0 \quad \text{or} \quad t(x', D) = \infty$$

$L$ : "w-transversal"

$$\iff \forall x' \in \partial D \text{ に対し } \mu(x') + \delta(x') + |T1(x')| + t(x', D) \neq 0$$

60

L: "(L.1) を満たす"

$$\iff \begin{cases} Q : \text{uniformly elliptic on } \partial D \text{ の } class C^{0,\lambda} \\ \mu, \delta \in C^{0,\lambda}(\partial D) \\ T : C^2(\bar{D}) \rightarrow C^{0,\lambda}(\partial D) : \text{continuous} \end{cases}$$

L: "(L.2) を満たす"

$$\iff \begin{cases} Q = \frac{\partial}{\partial \tau} \quad \tau \text{ is } class C^{1,\lambda} \text{ a vector field on } \partial D \\ \mu, \delta \in C^{1,\lambda}(\partial D) \\ T : C^2(\bar{D}) \rightarrow C^{1,\lambda}(\partial D) : \text{continuous} \end{cases}$$

Prop. 4

$$u \in C^2(\bar{D}) \quad \sup u = u(x') \geq 0 \quad \exists x' \in \partial D$$

$$\implies Q u(x') + \mu(x') \frac{\partial u}{\partial n}(x') + T u(x') \leq 0$$

$$\odot \quad T u(x') \leq 0 \text{ は Prop. 1 に } \square \text{ する.}$$

Prop. 5

$$L : w\text{-transversal} \quad u \in C^2(\bar{D}) \quad Lu \geq 0, \sup u > 0$$

$$\implies \exists x \in \bar{D} ; u(x) = \sup u \text{ かつ } Wu(x) \leq 0$$

$\odot$

D で  $\sup$  を attain する時は, Prop. 1 から明らかだ. 5

$\partial D$  で  $\sup$  を attain する時のみ考えよう.  $x' \in \partial D, u(x') = \sup u$ .

$$0 \leq Lu(x') = \underbrace{Qu(x')}_0 + \underbrace{\mu(x') \frac{\partial u}{\partial n}}_0(x') + \underbrace{Tu(x')}_0 - \delta(x') Wu(x')$$

$\delta(x') \neq 0$  ならば,  $Wu(x') \leq 0$  よって  $x'$  をとればよい.

$$\delta(x') = 0 \text{ ならば } \mu(x') \frac{\partial u}{\partial n}(x') = 0, Tu(x') = 0$$

$$\frac{\partial u}{\partial n}(x') = 0 \text{ ならば } \text{Prop. 5} \text{ } Au(x') \leq 0 \therefore Wu(x') \leq 0$$

さうしてなければ  $\mu(x') = 0$ , とよか  $Tu(x') = 0$  である

よって  $L$  の transversality に矛盾する

Prop. 6 (Prop. 5 の Corollary)

$L$ :  $w$ -transversal,  $\beta > 0$

$$u \in C^2(\bar{D}), Lu \geq 0, (W - \beta)u \geq 0$$

$$\implies u \leq 0$$

Prop. 7

$$\forall x' \in \partial D \text{ に対して } \mu(x') + \nu(x', D) + |T1(x')| \neq 0$$

$$W1 \neq 0 \text{ とする. その時 } u \in C^2(\bar{D}), Lu \geq 0, Wu \geq 0$$

$$\implies u \leq 0$$

⊙  $\sup u > 0$  とする.  $\bar{D}$  の中で  $\sup$  を attain すれば

Prop. 2 より  $u = \text{const}$ ,  $W1 \leq 0$ .  $W1 \neq 0$  であるから仮定に矛盾.

$$\sup u = u(x') > 0, x' \in \partial D \text{ とすると}$$

$$\frac{\partial u}{\partial n}(x') < 0 \text{ (by Prop. 3) 従って Prop. 5 と同様の}$$

議論により  $L$  の  $w$ -transversality に矛盾する。

この Prop 4~7 と Index 12 の "この Lemma 3 を用いれば",  
次の形の Main result を得る。

Theorem. 4

$A$  : uniformly elliptic on  $\bar{D}$  の class  $C^{0,\lambda}$

$S$  :  $C^2(\bar{D}) \rightarrow C^{0,\lambda}(\bar{D})$  の continuous operator

$L$  は "(L.1) を満たす".



1°,  $C^{2,\lambda}(\bar{D}) \rightarrow C^{0,\lambda}(\bar{D}) \times C^{0,\lambda}(\partial D)$

$u \mapsto (Wu, Lu)$  は "index 0" を持つ。

2°, さらに  $L$  : weak-transversal ならば,  $\beta > 0$  に対して

$u \mapsto ((W-\beta)u, Lu)$  は isomorph である。

3°  $\forall x' \in \partial D$  に対して,  $\mu(x') + |T_1(x')| + t(x', D) \neq 0$  である。

$W \neq 0$  ならば,  $u \mapsto (Wu, Lu)$  は isomorph

(Proof)

まず  $u \mapsto ((A-\beta)u, (Q-\beta))$  が isomorph であることを

注意しよう。この map は,  $u \mapsto ((A-\beta)u, [u]_{\partial D})$  と

$(u, \varphi) \mapsto (u, (Q-\beta)\varphi)$  を続けたものである。

と、 $\partial D$  は compact  $E$  から  $\varphi \mapsto (Q-\beta)\varphi$  は

$C^{2,\lambda}(\partial D) \rightarrow C^{0,\lambda}(\partial D)$  の写像として, isomorph

従って, Lemma 1 と合わせれば, 2つの写像は共に isomorph。

また、 $u \mapsto (Su, 0)$   $u \mapsto (0, \mu \frac{\partial u}{\partial n})$   $u \mapsto (0, Tu)$

$u \mapsto (\beta u, 0)$   $u \mapsto (0, \beta [u]_{\partial D})$  はいずれも

$C^{2,\lambda}(\bar{D}) \longrightarrow C^{0,\lambda}(\bar{D}) \times C^{0,\lambda}(\partial D)$  は compact operator

だから Lemma 3 により

$u \mapsto (Wu, Qu + \mu \frac{\partial u}{\partial n} + Tu)$  は index 0 を持つ

更に  $(f, \varphi) \mapsto (f, \varphi - \delta [f]_{\partial D})$  は  $C^{0,\lambda}(\bar{D}) \times C^{0,\lambda}(\partial D)$

上の isomorphism だから、最後の2つの写像を続けければ

$u \mapsto (Wu, Lu)$  は index 0 を持つことがわかる。

2°: "index 0" を持つことは、1°よりわかる。

従って、1: 1 を示せば十分。

とるが  $L$ ;  $w$ -transversal だから Prop. 6 より明らか。

3°は Prop. 7 から容易にわかる。

Theorem 4 により、

$\beta > 0$ ,  $f \in C^{0,\lambda}(\bar{D})$  に対して

$$\begin{cases} (W - \beta)u = -f \\ Lu = 0 \end{cases} \text{ は } C^{2,\lambda}(\bar{D}) \text{ の中に unique solution 存在}$$

これを  $u = G_\beta f$  と表わせば、

$G_\beta^L$  は  $C(\bar{D})$  上の sub-Markov resolvent operator

を定義することは、Theorem 2 と同様にして、わかる。

Theorem 5

$A, S$  は Th. 4 と同じもの

$L$  は "(L.2) をみたす"

$\forall x' \in \partial D$  に対し  $\mu(x') + t(x', D) + |T \perp(x')| \neq 0$

$\Rightarrow$

$\forall \beta > 0$  に対し  $C^2(\bar{D}) \longrightarrow C^{0,\lambda}(\bar{D}) \times C^{1,\lambda}(\partial D)$

$$u \longmapsto ((W - \beta)u, \mu \frac{\partial u}{\partial n} + \frac{\partial u}{\partial t} + Tu)$$

は isomorphism である.

証明は Th. 4 と全く同じ方法で, Lemma 2, Lemma 3 を用いれば容易に示せる

Cor of Th. 5

$$\begin{cases} (W - \beta)u = -f \\ Lu = -g \end{cases} \quad f \in C^{1,\lambda}(\bar{D}), g \in C^{1,\lambda}(\partial D)$$

は  $C^{2,\lambda}(\bar{D})$  の中に unique solution 存在

☺  $T' \equiv T - \beta \delta I$  は singular operator on  $\partial D$

Th. 5 において,  $T$  の代りに  $T'$  を適用すれば,

$$\begin{cases} (W - \beta)u = -f \\ \mu \frac{\partial u}{\partial n} + \frac{\partial u}{\partial t} + T'u = -g - \delta[f]_{\partial D} \end{cases}$$

は  $C^{2,\lambda}(\bar{D})$  の中に.

unique solution 存在 これは同時に, 問題の解である。



従って、 $L$ が“(L.2)をみたす”場合にも、sub-Markov resolvent  $G_\alpha^L$  は対応する。

次に、 $G_\alpha^L$  に  $C(\bar{D})$  上の continuous semi-group が果して、対応するか？ が問題になるが、そのためには、Hille-吉田の理論により、 $G_\alpha^L(C(\bar{D}))$  が  $C(\bar{D})$  の中で dense であることが必要十分である。

この問題に対しては、佐藤-上野の結果がそのまま成立つ。

### Theorem 6

$L$ が (L.1) または (L.2) をみたし、更に transversal ならば、 $G_\alpha^L(C(\bar{D}))$  は  $C(\bar{D})$  の中で dense である。

従って、 $G_\alpha^L$  には、 $C(\bar{D})$  上の conti. semigroup が対応する。

Th. 6は、 $G_\alpha^L$  の range が  $C(\bar{D})$  の中で dense であるためには、transversal であることが十分であることを云っているのだが、この証明は、佐藤-上野の方法が全くそのまま、成立つので、省略する。

これで、一応、semi group の存在するための条件を、 $L$  により条件づけられたが、(L.1)、(L.2) の中で、 $T$  の regularity の条件が具体的にない。それは、 $S$  についても同様であるが、

従って、 $S$  は  $T$  の regularity に関する条件を具体化する必要がある。

### §.4. Singular operator の regularity について

$A$  は  $\bar{D}$  上の uniformly elliptic operator of 2nd order であるから、 $\bar{D}$  には Riemann metric が与えられる。

$\bar{x}y$  は、その意味での geodesic distance

#### Lemma 4 [ $\partial_x u$ の性質 ]

$$(1) \exists C > 0, \forall u \in C^2(\bar{D}) \quad |u(y) - \partial_x u(y)| \leq C \|u\|_2 \bar{x}y^2$$

$$(2) \exists C > 0, \forall u \in C^2(\bar{D}) \quad |\partial_x u(y) - \partial_x u(y')| \leq C \|u\|_2 \bar{x}x'$$

== 即ち、 $\|\cdot\|_2$  は  $C^2(\bar{D})$  の norm

これは  $D \subset \mathbb{R}^N$  の場合に示して、あとは、適当に修正すればよい。  
 $D$  が有界領域の場合は直接計算すれば容易に示される。

#### Theorem 7

$\alpha > 0, 0 < \mu < 1, M$  : real  $C > 0$  が存在して

$$(a) \int_{B(x,r)} S(x, dy) \bar{x}y^2 \leq Cr^\alpha$$

$$(b) \int_{C[B(x,p) \cup B(x',p)]} |S(x, dy) - S(x', dy)| \leq C \bar{x}x'^\mu \frac{1}{p^{M-\mu}}$$

$\implies \exists 0 < \lambda < 1$

$u \mapsto \int S(x, dy) [u(y) - \partial_x u(y)]$  は  $C^2(\bar{D}) \rightarrow C^0(\hat{D})$ ; conti.

(Proof)

 $0 < \exists \lambda < 1$   $\overline{\alpha\alpha'}$  が十分小さいと  $\alpha < \alpha'$ .

$$\left| \int S(\alpha, dy) [u(y) - \theta_x u(y)] - \int S(\alpha', dy) [u(y) - \theta_{x'} u(y)] \right|$$

$$\leq C \|u\|_2 \overline{\alpha\alpha'}^\lambda \text{ であることを示せば十分。}$$

$$\overline{\alpha\alpha'} = \varepsilon < 1, \quad 0 < \delta < 1.$$

$$I_1 = \left| \int_{B(x, \varepsilon^\delta) \cup B(x', \varepsilon^\delta)} S(\alpha, dy) [u(y) - \theta_x u(y)] \right|$$

$$I_2 = \left| \int_{B(x, \varepsilon^\delta) \cup B(x', \varepsilon^\delta)} S(\alpha', dy) [u(y) - \theta_{x'} u(y)] \right|$$

$$I_3 = \left| \int_{C[B(x, \varepsilon^\delta) \cup B(x', \varepsilon^\delta)]} S(\alpha, dy) [u(y) - \theta_x u(y)] - S(\alpha', dy) [u(y) - \theta_{x'} u(y)] \right|$$

と  $\delta < \lambda$ 

$$\left| \int S(\alpha, dy) [u(y) - \theta_x u(y)] - \int S(\alpha', dy) [u(y) - \theta_{x'} u(y)] \right|$$

$$\leq I_1 + I_2 + I_3.$$

$$B(x, \varepsilon^\delta) \cup B(x', \varepsilon^\delta) \subset B(x, 2\varepsilon^\delta), B(x', 2\varepsilon^\delta) \text{ に注意して}$$

Lemma 4 (i) と (a) を用いて

$$I_1 \leq C_1 \|u\|_2 \int_{B(x, 2\varepsilon^\delta)} S(\alpha, dy) \overline{\alpha y}^2 \leq C_2 \|u\|_2 \varepsilon^{2\delta}$$

$$I_2 \leq C_2 \|u\|_2 \varepsilon^{2\delta} \text{ 同様にして}$$

$$I_3 \leq \int_{C[B(x, \varepsilon^\delta) \cup B(x', \varepsilon^\delta)]} |S(\alpha, dy) - S(\alpha', dy)| |u(y)| + \int_{C[B(x, \varepsilon^\delta) \cup B(x', \varepsilon^\delta)]} |S(\alpha, dy)| |\theta_x u(y) - \theta_{x'} u(y)|$$

$$+ \int_{C[B(x, \varepsilon^\delta) \cup B(x', \varepsilon^\delta)]} |S(\alpha', dy) - S(\alpha, dy)| |\theta_{x'} u(y)|$$

$$\text{第1項} \leq C_4 \overline{xx'}^\mu \frac{1}{\varepsilon^{\delta N}} \|u\|_2 = C_4 \varepsilon^{\mu - \delta N} \|u\|_2 \quad (\text{注意 (b)})$$

$$\text{第2項} \leq C_5 \|u\|_2 \overline{xx'} \int_{C(B(x, \varepsilon^\delta))} S(x, dy) \leq C_6 \|u\|_2 \varepsilon^{1-2\delta}$$

⊙ Lemma 4 (2) と

$$\int_{C(B(x, \varepsilon^\delta))} S(x, dy) \leq C \varepsilon^{-2\delta} \quad \text{に注意すればよい。}$$

$$\text{すなわち} \int S(x, dy) \overline{xy}^2 \leq C \quad (S(x, dy) \text{ の定義!!) \text{より出る}$$

$$\text{第3項} \leq C_7 \|u\|_2 \varepsilon^{\mu - \delta N} \quad \text{は 第1項と同様。}$$

$$\therefore I_3 \leq C_8 \|u\|_2 (\varepsilon^{\mu - \delta M} + \varepsilon^{1-2\delta})$$

$$\text{故に} \quad I_1 + I_2 + I_3 \leq C_9 \|u\|_2 (\varepsilon^{\alpha\delta} + \varepsilon^{\mu - \delta M} + \varepsilon^{1-2\delta})$$

$0 < \mu - \delta N < 1$  なるように  $\delta$  を定め、更に  $\alpha\delta < 1$  なるように出来る。  $\lambda = \inf(\alpha\delta, \mu - \delta M, 1 - 2\delta)$  とおけば

$$I_1 + I_2 + I_3 \leq C_{10} \|u\|_2 \varepsilon^\lambda \quad \text{となる。}$$

Cor of Th. 7

$$Su = cu + \frac{\partial u}{\partial X} + \int S(x, dy) [u(y) - \theta_2 u(y)]$$

$C, X, \theta$  とともに class  $C^{0,\lambda}$  とすると

$$C^2(\bar{D}) \longrightarrow C^{0,\lambda}(\bar{D})$$

$u \longmapsto Su$  は continuous である。

さらに、Th. 7 の条件をみたす  $S$  は、具体的にどのような形のものがあるかを、次の Th で述べる。

Theorem. 8

$m(dy)$ ;  $A(x, y)$  induce JH to Riemann volume element

$$(1^\circ) \quad K(x, y) \leq C \quad \forall x, \text{ almost all } y$$

$$(2^\circ) \quad |K(x, y) - K(x', y)| \leq C \bar{x}^\mu \quad \forall x, \forall y' \text{ almost all } y$$

その時  $S(x, dy) = \frac{K(x, y)}{\bar{x}y^{N+2-d}} m(dy)$  は Th. 7 の仮定をみたす。

(Proof)

(a)  $\tilde{m}(\partial B(x, r))$  を 球面  $\partial B(x, r)$  の面積とすると空間  $\bar{D}$

は compact 故に  $\exists K_1 r^{N-1} \leq \tilde{m}(\partial B(x, r)) \leq K_2 r^{N-1}$

$$\begin{aligned} \int_{B(x, r)} S(x, dy) \bar{x}y^2 &\leq C \cdot \int_{B(x, r)} \frac{m(dy)}{\bar{x}y^{N-d}} \leq C' \int_0^r \frac{1}{t^{N-d}} \cdot t^{N-1} dt \\ &\leq C' \int_0^r t^{-(1+d)} dt \equiv C'' r^\alpha \end{aligned}$$

(b)  $N+2-d > 0$  としよ。

$$\begin{aligned} &\int_{C[B(x, \rho) \cup B(x', \rho)]} |S(x, dy) - S(x', dy)| \\ &= \int_{C[B(x, \rho) \cup B(x', \rho)]} \left| \frac{K(x, y)}{\bar{x}y^{N+2-d}} - \frac{K(x', y)}{\bar{x}'y^{N+2-d}} \right| dm(y) \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \left| \frac{K(x, y)}{\bar{x}y^{N+2-d}} - \frac{K(x', y)}{\bar{x}'y^{N+2-d}} \right| &\leq \frac{1}{\bar{x}y^{N+2-d}} |K(x, y) - K(x', y)| \\ &\quad + |K(x', y)| \left| \frac{1}{\bar{x}y^{N+2-d}} - \frac{1}{\bar{x}'y^{N+2-d}} \right| \end{aligned}$$

$$\text{第1項} \leq C \frac{1}{\bar{x}y^{N+2-d}} \bar{x}^\mu \leq C \frac{1}{\rho^{N+2-d}} \bar{x}^\mu$$

$N+2-d = k \nu \quad 0 < \nu < 1$  なる  $\nu$  自然数  $k$  を選ぶ。

$$\left| \frac{1}{\bar{x}y^{k\nu}} - \frac{1}{\bar{x}'y^{k\nu}} \right| = |\bar{x}'y^{k\nu} - \bar{x}y^{k\nu}| \sum_{\substack{i+j=k+1 \\ i, j \geq 1}} \frac{1}{\bar{x}y^{i\nu} \bar{x}'y^{j\nu}}$$

$$\begin{aligned}
&\leq C |\overline{x'y}^\nu - \overline{xy}^\nu| \frac{1}{(\overline{xy} \wedge \overline{x'y})^{(k+1)\nu}} \\
&\leq C \overline{xx'}^\nu \frac{1}{(\overline{xy} \wedge \overline{x'y})^{N+2-d+\nu}} \quad (\because 0 < \nu < 1 \text{ のとき } |\overline{x'y}^\nu - \overline{xy}^\nu| \leq \overline{xx'}^\nu) \\
&\leq C \frac{1}{\rho^{N+2-d+\nu}} \overline{xx'}^\nu \\
\therefore \int_{C[B(x,\rho) \cup B(x',\rho)]} |S(x', dy) - S(x, dy)| &\leq C' \left( \frac{1}{\rho^{N+2-d}} + \frac{1}{\rho^{N+2-d+\nu}} \right) \overline{xx'}^{2+\nu\mu}
\end{aligned}$$

$\rho \cdot \overline{xx'} < 1$  としよ。おのり  $M = N+2-d+\nu$ ,  $\tilde{\mu} = \nu + \mu$  とおけば、

$$\leq C'' \frac{1}{\rho^M} \overline{xx'}^{\tilde{\mu}}.$$

境界上の singular operator  $T$  についても、同じ型の結果を得る。

$\tilde{x'y}$  を local には  $\sum |x^i(y) - x^i(x')|^2 + \chi^N(y)$  と equivalent 度量として定義する。

i.e.  $\forall (U, \chi) \quad U \cap \partial D \neq \emptyset, \quad U \supset K : \text{compact}$  に対し  
 $\exists K_1, K_2 > 0 \quad K_1 \tilde{x'y} \leq \sum_{i=1}^{N-1} |x^i(y) - x^i(x')|^2 + \chi^N(y) \leq K_2 \tilde{x'y}$   
 for  $\forall x' \in K, \forall y \in K$

### Theorem 9

(a)  $\forall x' \in \partial D \quad \int_{B(x', r)} t(x', dy) \tilde{x'y} \leq C r^d$

(b)  $\forall x', \forall x'' \quad \int_{C[B(x', \rho) \cup B(x'', \rho)]} |t(x', dy) - t(x'', dy)| \leq C \overline{xx''}^\mu \frac{1}{\rho^M}$

$\exists \alpha > 0, \quad 0 < \exists \mu < 1, \quad M : \text{real } C > 0$

$\Rightarrow 0 < \exists \lambda < 1, \quad u \mapsto \int_{\bar{D}} t(x', dy) [u(y) - \theta_{x'}^* u(y)]$  は

$C^2(\bar{D})$  から  $C^{0,\lambda}(\partial D)$  への conti. operator である。

更に  $|K(x', y)| \leq C$

$\forall x, a.a. y$

$$|K(x', y) - K(x'', y)| \leq C \overline{x''}^m \quad \forall x', \forall x'', a.a. y$$

つまり,  $t(x', dy) = \frac{K(x', y)}{x y^{n-d} \tilde{x}' y} m(dy)$  は, この定理の仮定をみたす。

これらの証明は Th. 8 に同じである。

### Remark 1

Wentzell の境界条件 L が (L.2) をみたす場合  $T$  は  $C^2(\bar{D})$  から  $C^{1,\alpha}(\partial D)$  への conti. op. であることを必要とするか, この条件に対する Th. 9 の形での条件は, 未解決である。

### Remark 2

$A$  及び  $Q$  が uniformly elliptic であることは, 微分方程式の結果に帰着させるために必要だったが, degenerate した elliptic op. については, この種の境界問題はどうか。

### 文献

- [1] BreLOT-Choquet-Deny のセミナー - J - ト. 1965/1966
- [2] Courrege ; Bourbaki のセミナー - J - ト. 1965/1966, n° 302
- [3], Sato-Ueno ; J. Math. Kyoto, 4-3 (1965)